ごあいさつ

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り、心から感謝申し上げます。

ここに、令和1年度の決算報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

令和1年度のわが国経済は、9月から11月に開催されたラグビーワールドカップ日本大会の盛り上がりや、参加国からの訪日客も増加したこともあり、第3四半期までは個人消費が比較的底堅く、また、設備投資も緩やかな増加傾向にあったことなどから、緩やかな回復傾向を維持してきたとみられていました。しかし、令和2年1月から新型コロナウイルス感染症の懸念から、海外からの観光客の激減によりインバウンド消費が期待外れとなり、製造業は部品調達の滞りから生産縮小に追い込まれるなど、第4四半期は新型コロナウイルス感染症の影響で、極めて厳しい状況となりました。

特に当金庫の主要な取引先である中小企業・小規模事業者においては、経営者の高齢化や後継者難、慢性的な人手不足といった構造的問題に加え、消費税率のアップや台風被害による個人消費の落ち込みの中、期後半には新型コロナウイルス感染症により大きな下押し影響を受けてしまいました。

令和1年度の事業につきましては、前年度よりスタートしました新長期計画「めぐろチャレンジ100年 Grow up2018～」の基本的理念「創業100年に向けて『半径500m』を深堀りする」の中間年度として、地域社会の発展に奉仕するという基本方針を再認識し、地域のお客様に「感謝」の気持ちを強く持って、業務運営に積極的に取り組んでまいりました。

また、業務の健全性・適切性を確保するための態勢整備に係る「内部管理基本方針」のもと、コンプライアンス態勢の充実・強化を図ると共に、地域金融機関として身の丈に合った本業に集中し、お客様・地域に信頼される健全性・確実性の確保に努め、最大限の機動力を発揮してお客様満足度やサービスの向上に努め、お客様本位の営業を推進してまいりました。

当期の業績は、預積金残高は対前期比4,028百万円増加の172,525百万円とすることができ、また、貸出金残高については依然として資金需要が低迷するなか、2,211百万円増加の93,228百万円とすることができました。定期積金契約高は、対前期比385百万円増加の48,736百万円となりました。

利益面では、利回り低下の影響により貸出金利息等の運用収益が減少しましたが、一方で調達費用等の減少もあり、経常利益368百万円（対前期比2百万円減少）、当期純利益で259百万円（対前期比0百万円増加）を計上することができました。

なお、自己資本比率につきましては、順調な利益確保による自己資本の充実により10.46%となり、引き続き健全性を維持することができました。

令和2年度のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が小売業やサービス業から製造業まで広がり、本格的な回復時期が見通しにくい厳しい状況にあります。政府の大規模な緊急経済対策により落込みは一定程度の緩和が期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく景気の後退局面が続くものと予想されます。

企業業績は、新型コロナウイルス感染症が多くの業種に影響を及ぼし、国内外の需要の減少で厳しいものと予想され、明るい展望がつかめない現状です。そのような中、当金庫の主要な取引先である中小企業・小規模事業者においても大幅な売上減少等からの回復を模索する、厳しい業況が続くものと考えられます。

このような環境の中で当金庫におきましては、地域経済の発展のため、お取引先中小企業・小規模事業者が持つ技術力や将来性を重視した事業性評価に基づく融資・コンサルティング機能の一層の取り組み強化を図るとともに、金融仲介機能の更なる質の向上に向け、顧客ニーズを的確に捉えた商品やサービスをタイムリーかつスピーディーに供給することに努めてまいります。

お取引先が抱える様々な課題の解決に取り組み、地域の成長・発展に貢献する一層の努力と積極的な取り組みにより、中小企業・小規模事業者、個人・地域に対する支援に向け全力で取り組んでいく方針です。

さらに、環境問題、マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策、反社会的勢力への対応や一向に減らない特殊詐欺への対応、また、コンプライアンス・リスク管理態勢および顧客サポート態勢の一層の充実により、当金庫がこれまで築き上げてきた「信用」「信頼」をさらに強いものにし、地域のお客様に「毎日感謝」の気持ちを持ち、地域金融機関としての社会的使命・役割を充分に発揮していく所存であります。

令和2年7月

理事長　矢　部　甲　子